

我が国の成長戦略に向けた 国際標準化検討調査業務

調査報告書 (概要版)

令和8 (2026) 年3月



内閣府
知的財産戦略推進事務局

Agenda

- 1) コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析
- 2) 標準人材のキャリアパスに向けた調査・分析
- 3) 海外における国際標準化支援策の調査・分析
- 4) 成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析

「コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析」の内容

別冊資料（概要版）をご参照

Agenda

- 1) コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析
- 2) 標準人材のキャリアパスに向けた調査・分析
- 3) 海外における国際標準化支援策の調査・分析
- 4) 成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析

標準人材について目指すべき方向性 (まとめ)

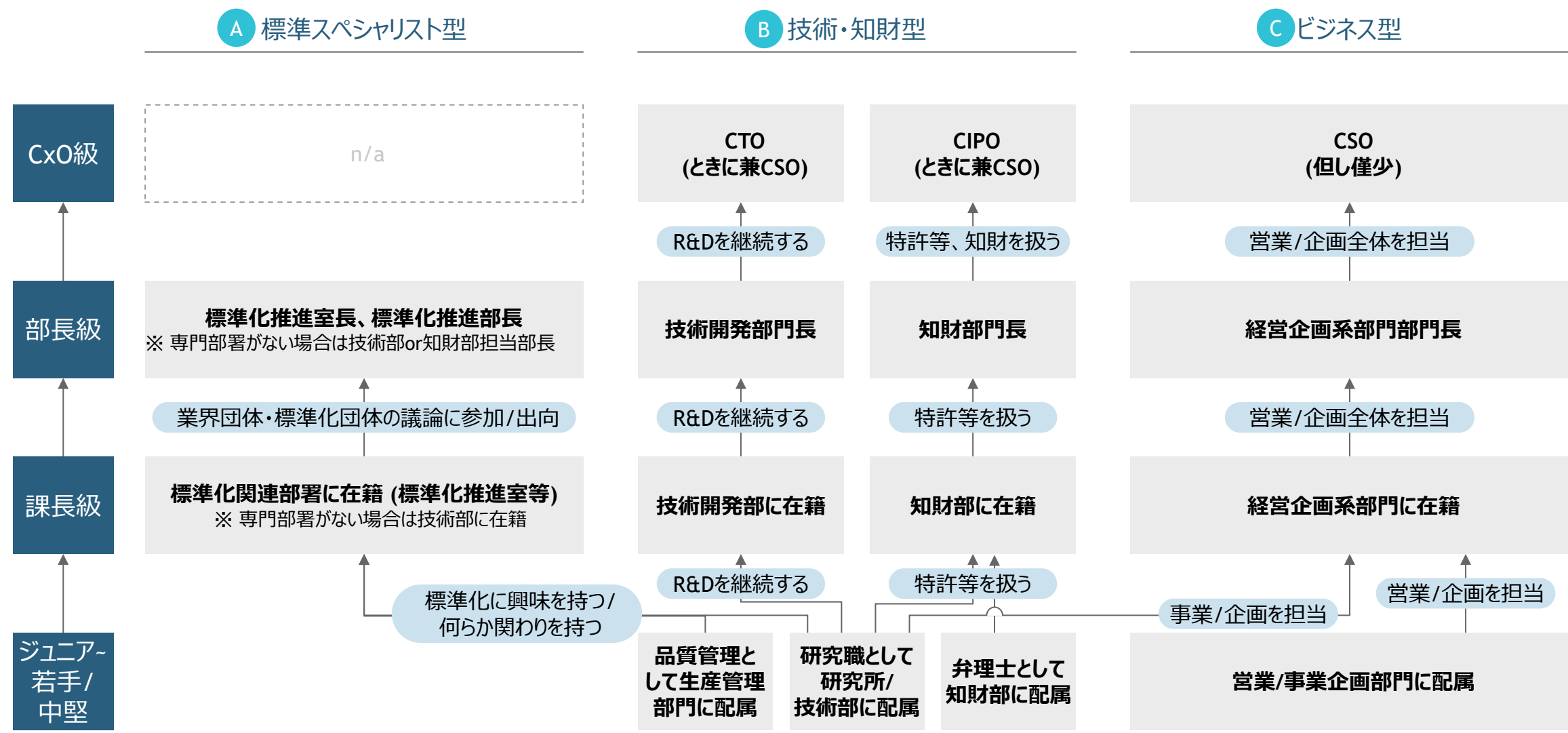


- 現状、標準人材は、大きく、「A 標準スペシャリスト型」、「B 技術・知財型」、「C ビジネス型」の3つの類型があると整理される
- 一方で、それぞれのキャリアや知見が断絶してしまっている場合が多い
 - 特に「A 標準スペシャリスト型」が事業戦略と連携できず社内タコツボ化してしまっている、という課題や、「C ビジネス型」が既存の規制/規格やルールを所与のものとして捉えている
- この背景には、「標準が儲かる」という認識が不足しており、トップのコミットメントも得られないため標準が全社的な取組になっておらず、十分な組織体制や人事制度・育成計画が確立されていないということが挙げられる
 - 標準化は市場主導権の確立や競争力強化に直結し、その実現には専任組織と人材を軸とした全社的な体制構築を行う必要がある
- 一方で、国内外で「標準」をうまく活用し、収益を得ている企業は存在している
 - ニッチトップやグローバル標準に準拠した技術を保有する企業をはじめとして標準化を一層推進していく必要がある
(事例は別の調査事業の結果も踏まえ、引き続き追加を検討)
- よって、この認識に立った上で、トップのコミットメントの下、全社的な取組として事業戦略と結びつけた上で標準化に取り組み、キャリアパスを明確に示した上で人材を育てていくことが重要である
- 標準に関連する高度人材としては、具体的には、下記3つが挙げられ、それが適切に育成されるよう取り組んでいくことが重要
 - 事業戦略と標準の観点を合わせたジェネラルな視点を持った「CSO」
 - 各種規格の策定戦略・実務に詳しい「規格策定スペシャリスト」
 - ルールを形成・改定し、策定した規格を普及させる「ルール形成・社会実装スペシャリスト」
- 上述の取組を進めていくためには、特に標準化活動の裨益が大きいと考えられる企業を特に中心に、他省庁とも連携し人材育成/活躍機会創出に向けた支援を重点化していくことが重要
 - 「規制適合・公共調達要件」が市場を決める領域のプレイヤーや、「グローバルニッチトップ技術」を有するプレイヤーが想定される



As Is (現状) の典型的なキャリアパスイメージ

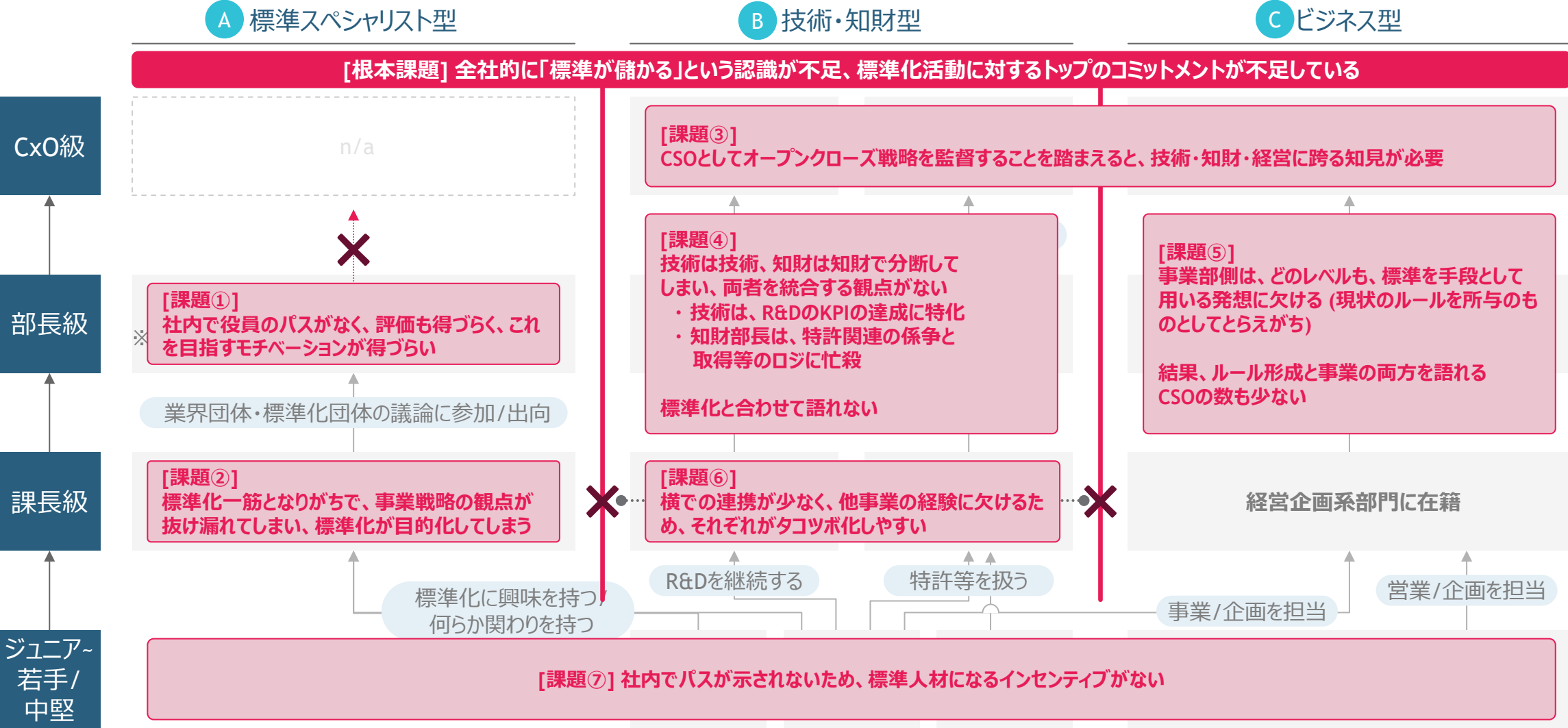
キャリアパスは、現状、「標準スペシャリスト型」、「技術・知財型」、「ビジネス戦略型」の3つの類型があると整理される



As Is (現状) のキャリアパスの課題



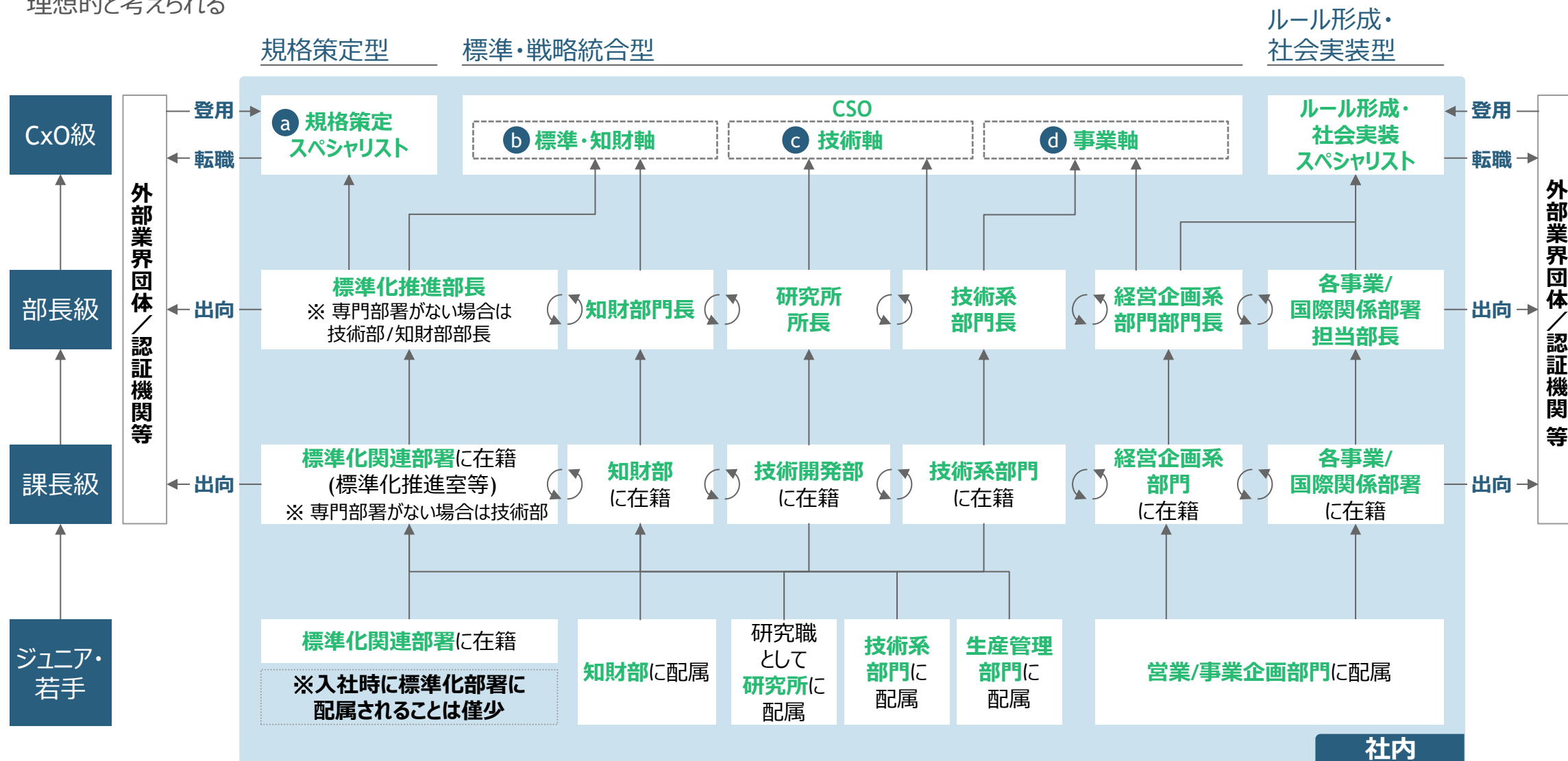
現状、それぞれのキャリアや知見が断絶しており、特に、「A 標準スペシャリスト型」が社内でタコツボ化し、事業戦略と連携できていない、という課題が顕在化している





To Be (あるべき) のキャリアパス - 役職及び主なルート

キャリアパスは、標準・知財・技術・ビジネスに関するノウハウを横断的に会得する統合型と、規格の策定・普及を担うスペシャリストがそれぞれ存在することが理想的と考えられる





To Be (あるべき) のキャリアパスで求められる主な役割

「規格策定」/「ルール形成・社会実装」は個別の標準/ルールの具体化が求められる一方、CSO は全社戦略と標準を統合することが求められる

ルール形成・
社会実装型

規格策定型

標準・戦略統合型

CxO級	分野別標準戦略を描き、自社技術を国際ルール化する意思決定を実施	- 標準を用い市場形成/収益実現をしていくための全社戦略 (オープンクローズ含む) の策定 「デファクトを使うか、デジュールを使うか」、「どこで収益化するか」の判断 等 - 販売・投資・提携戦略まで踏まえた標準化戦略の設計 - 業界団体との関係の構築、各国政府機関との合意形成				- 市場/エコシステム形成に係る戦略策定 - 政府・業界団体への合意形成
部長級	【共通】全社メッセージと現場の取り組みの整合性確保と上位方針のわかりやすい翻訳・共有を行い、標準化活動に取り組む意義を明確化					
	- 国内委員会/国際会合 (ISO/IEC等) の運営 - 各国政府・標準化機関との信頼関係を構築	- SEP (標準必須特許) の形成 - 標準・知財と事業の接続	- R&D戦略・ロードマップの策定 - 標準化候補技術の創出・選定	- 標準に基づく製品・サービス実装 - 自社技術の規格適合・認証取得	- 標準化を絡めた事業戦略の策定 - 標準活動のROI/リスクの可視化	- 政府調達要件や規制への規格引用 - 各国の政策先読み - 認証機関との連携
課長級	【共通】技術理解を前提とした標準化活動全体の俯瞰と構造化、社内外への説明方針の整理および、これらを通じた標準化活動の重要性の浸透					
	- 国内委員会/国際会合 (TC/SC/WG) に参加 - 社内技術の規格案への落とし込み - ミラーコミュニティのリーダー格	- 知財実務の遂行 - 発明抽出→出願→管理等	- 技術担当者としての委員会参加 - 研究の現場監督	- 標準化に必要なデータを整備 - 規格の実装責任者	社内戦略と標準の接続の検討	- 国際的な渉外担当/コンセンサス形成 - 海外販売戦略の検討
ジュニア~若手/中堅	【共通】各所属コミュニティで信頼と影響力の構築					
	標準化担当者 コントリビューション作成 ※入社時に標準化部署配属は僅少	弁理士 特許の基礎実務	研究所 研究のメインの担い手	技術系部門 開発の基礎実務	生産管理 生産管理の実務実務	営業/企画 - 非技術系ルールの交渉・合意形成 - 規格活用の実装 (認証取得 等)



To Be (あるべき) の各キャリアステップで求められるスキル

「規格策定」/「ルール形成・社会実装」が、交渉力/ネットワーク等が求められる一方、CSO は全体を俯瞰する設計力/プレゼンスが求められる

ルール形成・
社会実装型

規格策定型

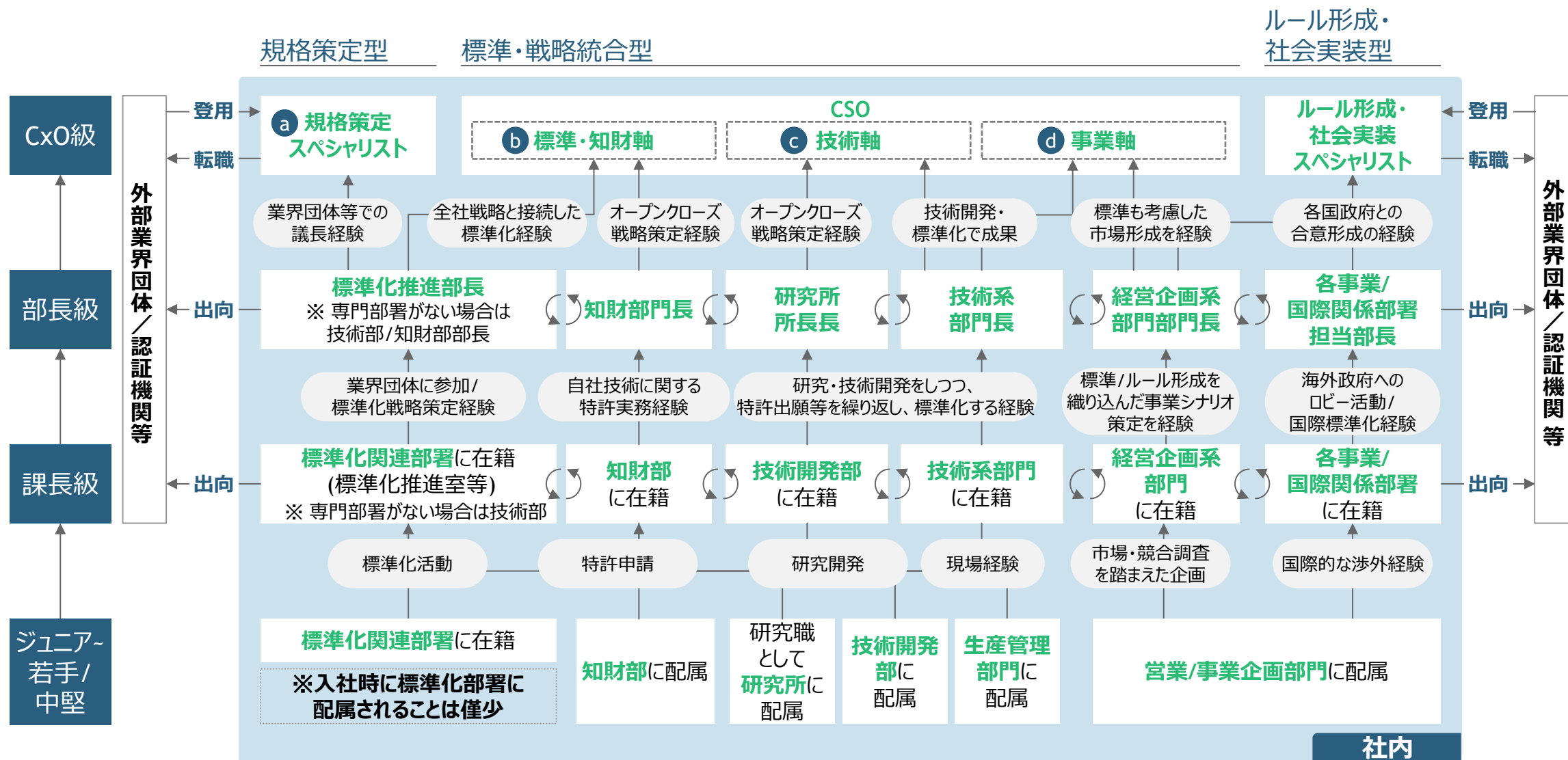
標準・戦略統合型

CxO級	- 国際標準化のルール/交渉構造の理解 - 外部とのネットワーク(標準化団体等)	- 収益モデル設計とルール形成の統合能力(市場形成力) - デファクト/デジュール使い分けとIP活用判断のノウハウ(オープンクローズ含む) - 政府機関・業界団体でのプレゼンス				- 外部連携力 - 地政学・政策動向を踏まえた交渉 - マーケティングスキル
部長級	【共通】経営層のメッセージを翻訳し、部下に落とし込むための発信力と、社内外の各部署との合意形成を含めた調整能力					
	- 国内委員会/国際会合(ISO/IEC等)の運営 - 各国政府・標準化機関との信頼関係を構築	- 特許戦略設計力 - オープンクローズ戦略の知見	標準化・知財と連動した技術ロードマップの策定能力	- 標準と接続した開発戦略策定力 - 市場起点での規格活用力	- 標準と接続した経営戦略構築力 - 対外交渉力(業界・政府)	- 各国政府・企業との強固なコネクション - 合意形成力 - マーケティングスキル
課長級	【共通】標準化活動を行うの前提となる技術への理解と社内への調整力					
	- 仕様/合意文書の起草 - 社内の各部署との合意形成をするためのファシリテーション力 - 国内外のコミュニティでの関係の構築力	- 知財の関連手続/メカニズムの理解 - 知財で稼ぐスキームの理解	- 自社技術を仕様化する力 - R&Dに関するマネジメント力	標準化・知財と連動した技術開発の知見	- 事業の設計能力 - ルール形成のメカニズムの基礎的な理解	- 語学力・海外文化理解 - マーケティングスキル
ジュニア・若手/中堅	【共通】標準化コミュニティで信頼と影響力を築くための技術・標準への理解・英語力・非公式場面での関係構築力					
	標準化担当者 標準化活動の基本的な実務スキル ※入社時に標準化部署に配属は僅少	弁理士 - 最低限の技術理解 - 特許申請実務	研究所 - 技術理解 - 技術を文書化する力	技術系部門 標準仕様の読解・要約	生産管理 - プロセス設計/品質管理力 - 規格実装力	営業/企画 - 業界ビジネスモデルの理解 - 経営知識



To Be (あるべき) のキャリアパスにおいて、ステップアップに必要な経験

よって、ステップアップのためには各類型に必要な経験を該当部門で積む必要がある



全社横断での取組が必要であるため、トップ層のコミットメントが大前提



Agenda

- 1) コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析
- 2) 標準人材のキャリアパスに向けた調査・分析
- 3) 海外における国際標準化支援策の調査・分析
- 4) 成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析

各国の予算措置状況まとめ (一定の仮定を置いて集計した値)



標準化
予算額

- 166.2 M EUR (287億円)
- ①SMP: 35.2 M EUR
 - ①Horizon Europe:104 M EUR
 - ⑤European Defence: 27 M EUR

- 2,475億KRW (247.5億円)
- 科技情報通信部:1,321億KRW
 - 産業部: 654億KRW
 - 保健福祉部 等: 229億KRW
等...

- 228 M GBP (456億円)
- DSIT: 153 M GBP
 - OPSS: 62 M GBP
 - BSI: 8 M GBP
等...

集計の概要

MFFの各項目のWork programme
(実施計画書)を対象に分析

第5次国家標準基本計画に基づく
最終実施計画に関する文書をもとに
分析

公開されている51省庁を対象に
Annual Reportを分析

Agenda

- 1) コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析
- 2) 標準人材のキャリアパスに向けた調査・分析
- 3) 海外における国際標準化支援策の調査・分析
- 4) 成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析

「成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析」の取組概要

仕様書の記載に従い、標準活用促進調査業務の請負事業者 (ペガサス社) に対し、下記のとおり打ち合わせを行いつつ、必要な助言・指導を複数回にわたり実施した

[各打ち合わせにおける主なアジェンダ]

- 初回打ち合わせ/現状の確認
- 目指すべきアウトプットイメージの提示
- アウトプットイメージに基づく調査結果の議論①、ヒアリングの進め方
- アウトプットイメージに基づく調査結果の議論②、ヒアリング結果のご共有
- 調査結果のまとめ



bcg.com